

JP054 蕪栗沼 (かぶくりぬま)

宮城県：登米市、大崎市

位置	N 38° 38′ E 141° 06′
面積	150ha

環境構成【湖沼／水田／農地／沈水・挺水植物】

宮城県北部の平野と丘陵地の接点に形成された沼沢。

伊豆沼・内沼同様丘陵地帯に挟まれた広大な沢沼地だったものが幾度かの干拓を経て現在の形になった。遊水地であり平常時、恒常的に維持される水面は小さく、沼の広い範囲にヨシ・マコモ・ガマなどが密生する湿地となっている。沼内で小山田川に萱刈川が合流して沼地の南側から合流し下流は旧迫川となる。沼内の河川沿いや過去の増水で土砂が溜まったような場所は堤防状になるなど周囲よりやや高くヤナギ林などが成立している。伊豆沼・内沼が開水面を主とした構成であるのに対して、蕪栗沼は湿地や河畔林を主とする環境である。渇水時には沼の水面の広い範囲が干潟のように露出する。ラムサール条約登録に先立って蕪栗沼に隣接する白鳥地区の水田が沼として復元された。

周囲は、北側からスギ植林や畑、人家を配した低い丘陵が接しているほかは、東側、新野谷地にあった開拓集落が集団移転したので人家が少ない広い水田地帯である。



写真：竹丸勝朗

選定理由

A4i	マガン
A4iii	カモ類

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（蕪栗沼・周辺水田）

<その他>

ラムサール条約登録湿地、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

保全への脅威

- ・陸化の進行
- ・採餌に利用される広範囲の水田の維持
- ・渡り鳥の増加・集中による水質悪化や植生への影響、伝染病の懸念がある。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化：
増えている
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
団体独自で行っている。
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：良好（全域、もしくは 90%以上が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（蕪栗ぬまっこくらぶ・宮城県）
内容：水位調整、陸地化防止、湿地維持管理、啓発
- ・ 外来種のコントロール：実施者（蕪栗ぬまっこくらぶ）
内容：ブラックバス等外来魚の駆除
- ・ 環境教育活動：
内容：小中学校への出前授業、水辺の生き物観察、渡り鳥の観察、国際交流
（蕪栗ぬまっこくらぶ）
探鳥会（日本野鳥の会宮城県支部）
- ・ 保全のための人材育成活動：実施者（蕪栗ぬまっこくらぶ、大崎市）
内容：おおさき生きものクラブの運営
- ・ 法律制定、政策、規制：実施者（環境省）
内容：鳥獣保護区
- ・ モニタリング調査：
内容：鳥類、植物、昆虫、魚貝類のモニタリング、希少生物のモニタリング
（蕪栗ぬまっこくらぶ・宮城県）
調査研究（日本雁を保護する会）
- ・ 経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（蕪栗ぬまっこくらぶ）
内容：エコツアーの実施

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・ 蕪栗沼管理会
- ・ 大崎市ラムサール条約湿地保全活用検討会
- ・ NPO 法人蕪栗ぬまっこくらぶ

見られる鳥

留鳥	カイツブリ、アオサギ、カルガモ、トビ、オオタカ、ウズラ、キジ、オオバン、カワセミ、ヒバリ、モズ、ウグイス、ホオジロなど
夏鳥	オオヨシゴイ、アマサギ、チュウサギ、ヒクイナ、オオバン、タマシギ、カッコウ、ヨタカ、キセキレイ、セグロセキレイ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、ホオアカ、コムクドリなど
冬鳥	ハクチョウ類、ガン類、カモ類、オジロワシ、オオワシ、コチョウゲンボウ、ハイイロチュウヒ、タゲリ、コミミズク、タヒバリ、ツグミ、オオセッカ、オオジュリン、ベニマシコ、コクマルガラス、ミヤマガラスなど
旅鳥	シギ・チドリ類

関連団体・自治体・施設等

- ・ 日本野鳥の会 宮城県支部

